

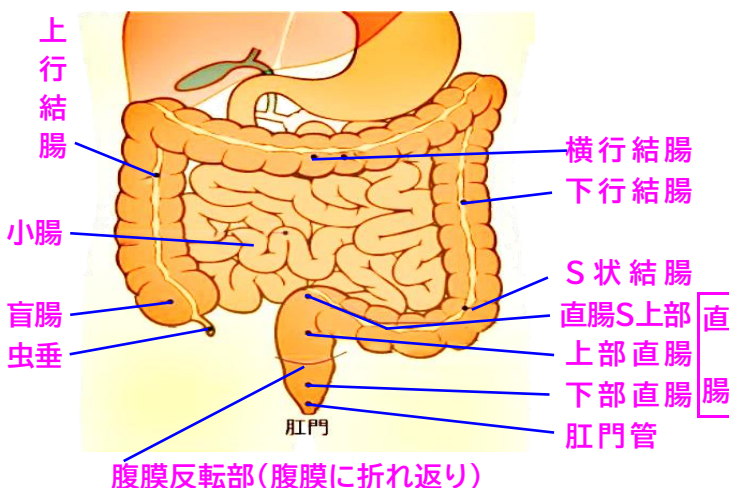
大腸癌は、罹患する人、死亡する人の数共に増加傾向が続いている癌です。国立癌研究センター癌情報サービスの2021年度の癌統計予測によると、年間の罹患数は15万6700例で、全癌の中で第1位(男性3位、女性2位)、死亡数は5万3800人で第2位(男性2位、女性1位)となっています。今回は「大腸癌」に関するお話です。

★ 大腸癌が増えている原因

- ① 大腸癌が増えている原因のひとつは、食生活の『日本の食卓』から『欧米型』への変化！
 - ・ 日本の食卓：主食のご飯に、魚介・海藻・豆腐・野菜等の副菜と汁物といった和食の献立
 - ・ 欧米型食卓：肉類を中心とした動物性たんぱく質と、動物性脂肪が多い献立
 欧米型は、腸内細菌が有害物質を出して癌の発症を促したり、便の滞留時間が長くなって発癌物質が生じ易くしている！
- ② 喫煙・多量の飲酒・肥満も要因！
- ③ 加齢もリスク要因で、大腸癌の場合、40歳代から罹患が増え始めて、より上の層は要注意！

★ 大腸の機能と癌の発生部位

- ① 大腸は、全長10メートル程ある消化器の最後尾に位置し、小腸から送られてきた内容物から一部の栄養素と水分を吸収した後の残りカスを便にする。そして、その便を貯留するという2つの役割をしています。
- ② 大腸は大きく結腸と直腸の2つに分かれ、大腸癌はその2つにできる癌の総称です。大腸癌の内、約4割は直腸に、約2割は結腸の内、直腸に近い部分に位置するS字結腸に発症しており、計6割程が便と接する時間が長い肛門に近い部位にできています。



★ 大腸癌の症状

- ① 症状は、血便、排便習慣の変化(便秘、下痢)、便が細くなる(狭小化)、残便感・貧血・腹痛・嘔吐等がでます。
- ② 大腸癌の位置に症状は異なり、硬い便が通る下行結腸・S状結腸・直腸の癌では、便の通りが悪くなることによる腹痛・嘔吐が起こり、血便や便の狭小化も認め易くなります。
- ③ 便がまだ水様で固まりきっていない盲腸・上行結腸・横行結腸に出来る大腸癌では、進行しても腹部症状が目立たないことが多く、貧血や腹部のしこりの症状で発見されることがあります。



★ 早期に発見すれば100%近く完治が可能

大腸癌は、一般に、おとなしくて治り易い癌で、早期に発見すれば、内視鏡や手術(外科治療)による切除で100%近く完治しています。実際、大腸癌の5年相対生存率(2009～11年診断例)は、71.4%で、肺癌(34.9%)や胃癌(66.6%)全部位の癌(64.1%)より良好な結果となっています。但し、早期発見・早期治療を怠りますと、右図のように、他臓器への転移の可能性が高まります！

早期発見・早期治療が大切です！1年に1回は健診診断や人間ドック・癌検診を受け、「要再検査」や「要精密検査」と出た場合には、必ず医療機関を受診しましょう！生活習慣で改善できることは改善して、大腸癌の発症を少しでも抑える生活を心掛けましょう！

